



# 協同的学びによる 授業の改革

一人残らず学びの主人公に



沖縄県国頭中学校

佐藤 学

# 学びの主権者に 学びの疎外の克服へ

- \* 学びの疎外 = <対象(世界)>の喪失、<仲間>の喪失、<意味>の喪失
- \* 学び = 対象(世界、テキスト)との出会いと対話、他者との出会いと対話、自己との出会いと対話
- \* 協同的学びによる学びの共同体づくりが<学びの疎外>を克服する唯一の道 = 一人ひとりを学びの主権者に育てる。

# 一斉授業の破綻



# 教室の風景



# 学びの共同体の国際化

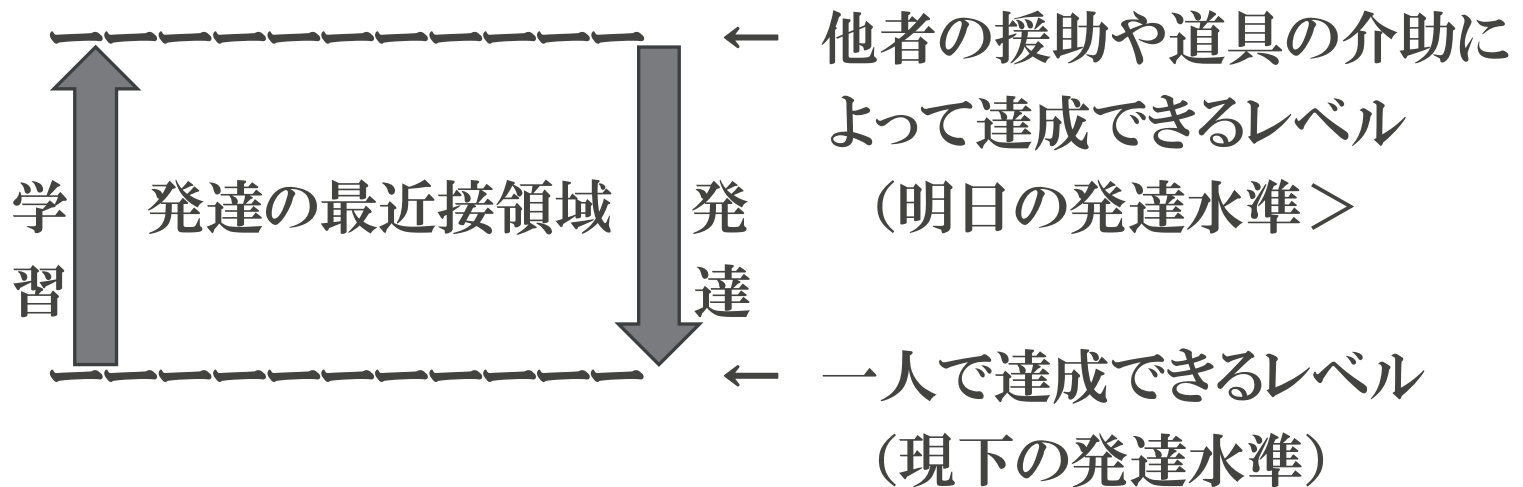


# 協同的学びの理論(1)

## 発達の最近接領域(ZPD)

- \* 学びの可能性は、発達最近接領域 (Zone of Proximal Development = ZPD) にある。(Vygotsky)

### ＜ヴィゴツキーの発達最近接領域＞



協同的学びの可能性は、ZPDにある。

# 協同的学びの理論(2)

## モニタリング

- \* 学びは<真似び=模倣>であり、他者の思考をモニタリングによって<内化 (interiorization) >することとして創出される。(Vygotsky)



# 協同的学びの理論(3) 足場かけ(架橋)

「足場かけ＝架橋」(scaffolding)＝他者の思考を踏み台にしてジャンプする。(B.S. Bruner)





# 互惠的学び (reciprocal learning)

- \* 互惠的学び (reciprocal learning) が、協同的学びを促進する。(Ann Brown)



# 学びの風景



# 学びの風景



# 授業改革 = 二つの課題

\* 「学びの成立」についての探究 = いつも原点にもどろう。

学びは〈出会い〉と〈対話〉である。テキストと対話し(世界づくり)、他者と対話し(仲間づくり)、自己と対話する(自分づくり)

active, collaborative and reflective learning

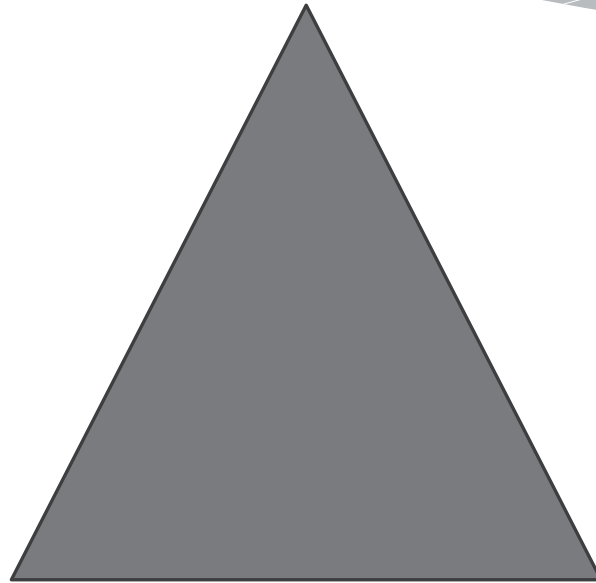
reciprocal learning (互惠的学び)

\* 「真正の学び」(authentic learning)の追求。

教科の本質に即した学び。(言葉の学び、文学の学び、科学の学び、歴史の学び、アートの学び)

# 学びを成立させる三つの要件

真正の学び



学び合う関係

ジャンプのある学び

# 学び合いの風景



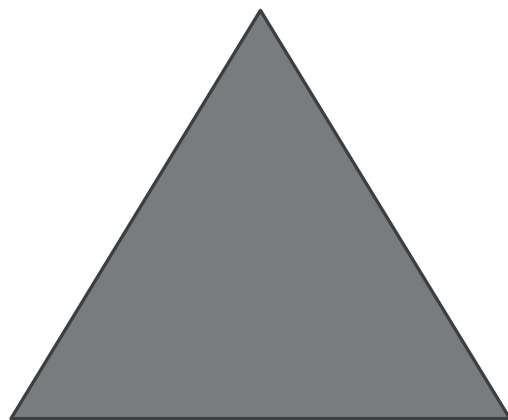
# 教師の専門的成長の三つの内容

職業倫理

\*

公共的使命と教師の自律性

mission & autonomy



職人性 (craftsmanship)

技法 (artistry)

専門性 (professionalism)

知識と理論

# 専門家共同体の形成

## 民主的な同僚性の構築

新しい授業研究の創造＝学びの〈デザイン〉と〈リフレクション〉としての授業研究へ

教師共同体における個性と多様性の追求。(サンゴのような共同体ではなく、オーケストラのような共同体へ)。

個人研究テーマの設定＝個人研究のアンサンブルとしての校内研修。

〈子どもの学びの共同体〉と〈教師の専門家共同体〉  
と〈親の民主的共同体〉の同時追求。



# 校内研修の風景



# 結論：学力向上のために

## 学力を高めるための要点

- ① 学力向上を追求しないことが、学力向上の第一の要点。
- ② 学力向上には時間がかかる、しかし、上がるときには一気にあがる。
- ③ 学力の向上は、まず発展的学力(B問題)が向上し、次に基礎学力(A問題)が向上する。
- ④ 学力向上を達成した学校は「学び合い」を行っている。しかし、「学び合い」をやれば、学力が向上するわけではない。
- ⑤ 学力向上は二段ロケットで進行する。二段ロケットを飛ばさなければならない。
- ⑥ 学力向上は、教師の教養レベルに相関する。